

国際メンタリングワークショップ° Joshikai in Fukushima 2023 報告書

2023年9月

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

国際グループ

概要

➤ 目的

- 理工系分野での女性人材の確保と活躍の促進

- ① 将来への不安（進路・就職など）について意見を交換・共有し、メンターとの交流を通して改めて自分のキャリア形成について考える機会とする
- ② 様々な分野からの学びにより、選択肢の幅を広げる
- ③ 自分の将来とともに、福島の現状と復興、廃炉について考える



➤ 日程

ワークショップ：7月29日（土）、30日（日）

1F視察（希望者）：31日（月）

➤ 会場

富岡文化交流センター「学びの森」

（福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚622-1）

➤ 参加者

福島県内を中心とした女子高校生・高専生（37名）

海外女子生徒（ルーマニア 9名）



主催

- 主催

 - 原子力損害賠償・廃炉等支援機構（NDF）

- 共催

 - 経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）

- 後援

 - 福島県教育委員会

- 協力

 - 日本原子力研究開発機構（JAEA）

 - 量子科学技術研究開発機構（QST）

 - 産業技術総合研究所（AIST）

 - 東京工業大学

 - 福島大学

プログラム

テーマ：理工系分野での私の未来を考える

◆ Day1

主催者挨拶(ビデオメッセージ、基調講演)

メンター講演

福島レクチャー

グループディスカッション 1

ポスターセッション

グループディスカッション 2 (並行して先生セッション)

まとめ

レセプション

◆ Day2

特別講演

グループワーク (並行して先生セッション)

グループプレゼンテーション

ラウンドテーブルミーティング

富岡アーカイブミュージアム

◆ Day3

福島第一原子力発電所視察



共同議長



国内共同議長
室伏きみ子

お茶の水女子大学前学長・名誉教授
ビューティ&ウェルネス専門職大学学長



海外共同議長
アリシア・ダンカン

米国エネルギー省国際原子力政策協力副次官補



国内共同議長代理

渡辺美代子

日本大学 常務理事

国内メンター



佐々木成江
お茶の水女子大学 特任教授



府中ひかる
東京電力パワーグリッド株式会社



上條由紀子
九州工業大学 特任教授

海外メンター



ディアンヌ・キャメロン
OECD/NEA原子力技術開発経済課長



ニーナ・クロミニエル
スウェーデン放射線安全局長官



ダイナ・ニクラエ
ルーマニア国立ホリア・フクベイ国立物理学・
原子核工学研究所

ポスターセッション

- 放射性廃棄物固化処理の活用に期待されているアルカリ活性材料の結晶化の原因究明(JAEA・伊藤あずさ氏)
- 加速器と原子炉で高レベル放射性廃棄物の有害度低減を目指す (JAEA・近藤奈央氏)
- 遺伝子の運命を決めるエピジェネティクスの仕組み(東京工業大学・藤泰子准教授)
- 革新的「見える」がん治療薬開発による難治性がん克服への挑戦(QST・吉井幸恵氏)
- ITERブランケット遠隔保守装置の開発 (QST・齋藤真貴子氏)
- 絵具や化粧品に使われているナノ材料を用いた汚染物質回収(AIST・臼田初穂氏)
- 三世代コホート調査の運営 (妊婦さんとお子さんの高血圧要因と予後に関する研究) (東北大・石黒真美講師)
- 病気の仕組みを解明し植物の病気を防ぐ(福島大学・岡野夕香里准教授)
- 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の概要 (NEDO 高橋ひとみ氏)



グループディスカッション



グループディスカッション

参加者を8名のグループに分け、メンター講演を聞いて感じたことやメンターへの質問を交えグループディスカッションを実施しました。理工系分野での女性の働き方、自身の将来について、自分の考えを深めました。

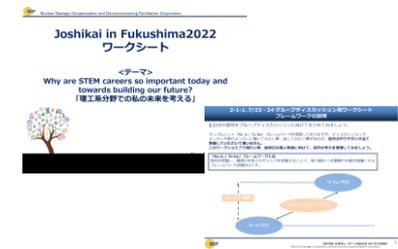
グループディスカッション 1 & 2

グループディスカッション2ではグループ構成員はそのままメンターを入れ替え、全員が国内・海外メンターそれぞれと直接話す機会を設けました。

事前に聞きたいこと、自分の考えをまとめ、ワークショップにのぞみました。各分野で活躍されているメンターと直接話ができる貴重な経験となりました。



Joshikai2023 ワークシート



プレゼンテーション

各グループで行われたディスカッションをまとめ、1グループ10分で発表を行いました。

1人ずつ感想を述べたり、すべて英語で発表したり、寸劇を行ったりとグループの個性がでました。



女性が社会で活躍していくために必要な問題についてディスカッションを行いました。

福島原発での事故の報道やそれ以降の様子などを寸劇にしたグループもありました。

参加後には感想レポートの提出がありました。



ラウンドテーブルミーティング



山名理事長、マグウッド事務局長それぞれの経験談を共有いただきました。諦めないことの大切さ、障害にぶつかっても前進し続ければ道は開けるということを参加者はそれぞれ感じました。また参加者がこのメンタリングワークショップに参加しての感想、不安なこと、学んだことを述べ、それに対して山名理事長、マグウッド事務局長そしてメンターから感想を述べていただき、みんなで共有し、国際メンタリングワークショップの総括を行いました。



引率先生向けセッション

➤ 特別セッション

横山広美先生によるプレゼンテーション

東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 副機構長・教授

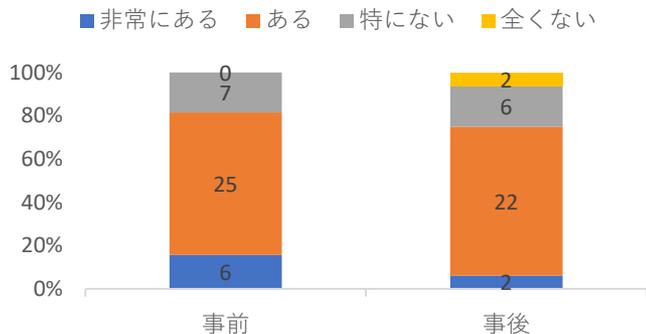
横山先生に「理工系女性がなぜ少ないのか」というタイトルで講演をいただき、また東工大・藤准教授、東北大・石黒講師にも、ご自身のバックグラウンドや理工系に進んだ経緯等をお話いただきました。

その後、9名の先生（ルーマニア2名、日本7名）とマグウッド事務局長、山名理事長を含め、女子高校生が理工系に進むためにどんなことが必要なのかをディスカッションしました。ルーマニアの状況を共有していただきながら、どのようなサポートが必要なのか、出席者で共有しました。



事前・事後効果測定アンケート

進路に関して不安が



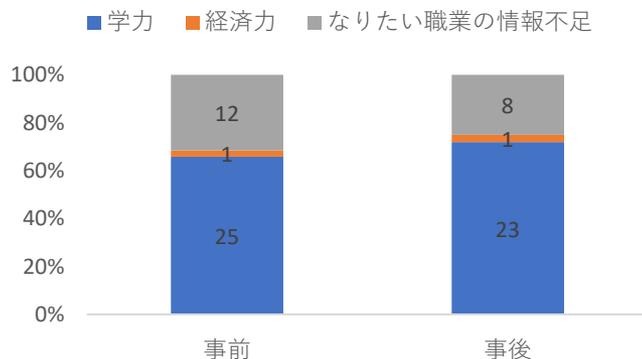
事前・事後効果測定アンケート

※集計数に違いあり

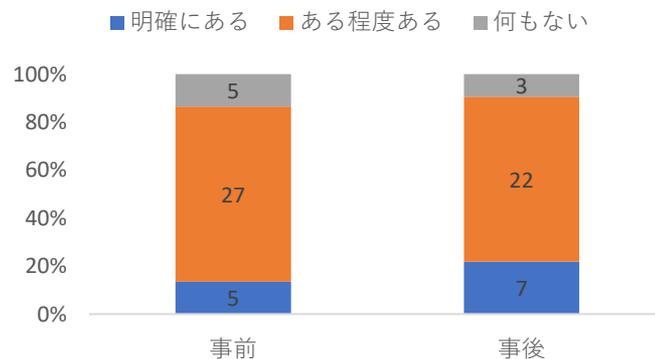
事前サンプル数：38

事後サンプル数：32

進路に関して不安な原因は



将来の夢が



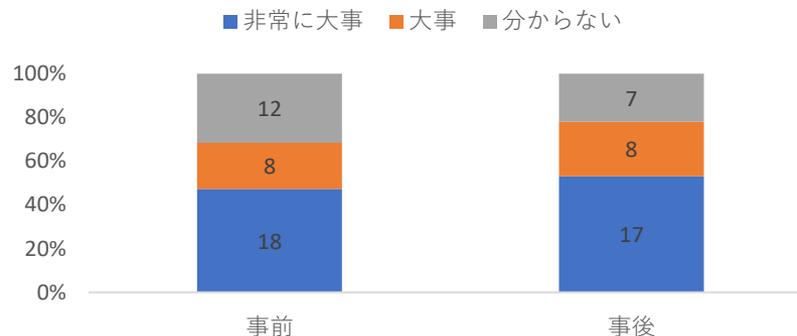
事前・事後効果測定アンケート

【理系科目について】

理系教科が



自身の将来に理系科目は



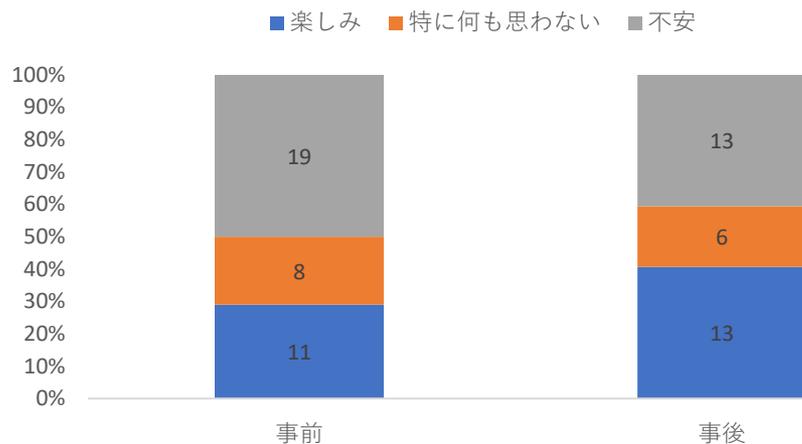
女性専門家がいるネットワークへの参加に



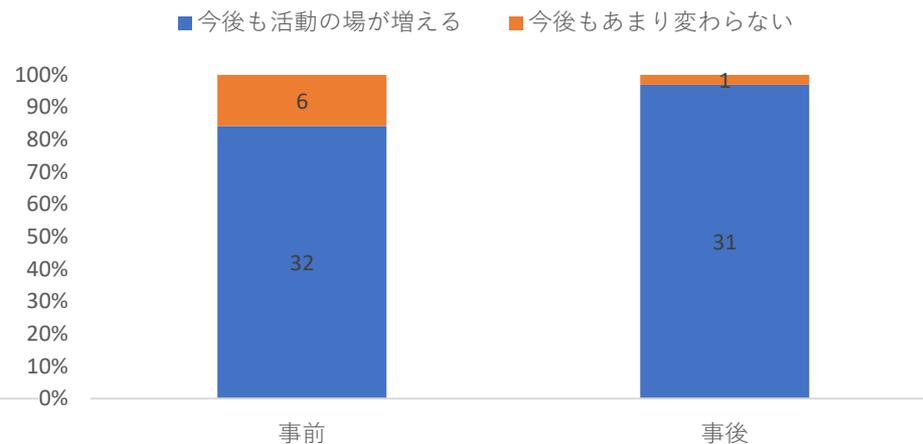
事前・事後効果測定アンケート

【女性と社会】

社会人になることが



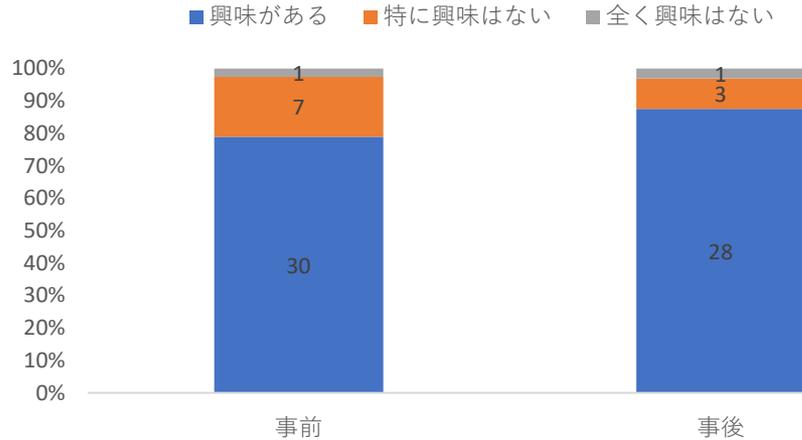
女性の社会進出は



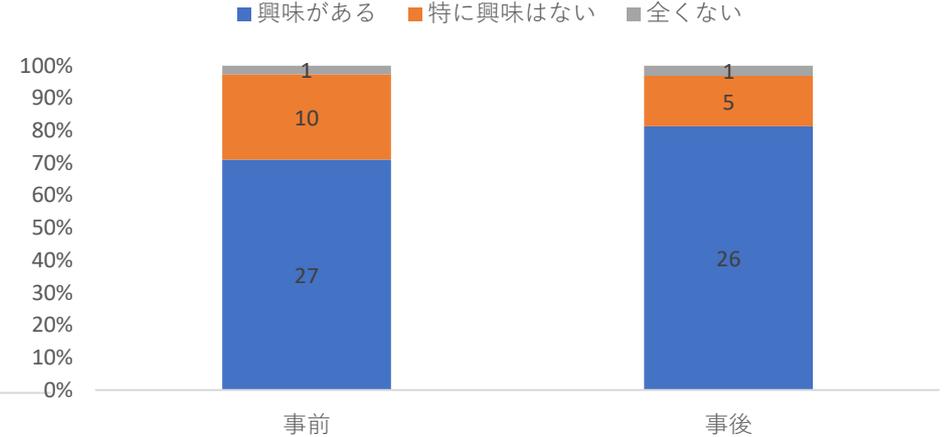
事前・事後効果測定アンケート

【海外とのつながり】

海外留学に



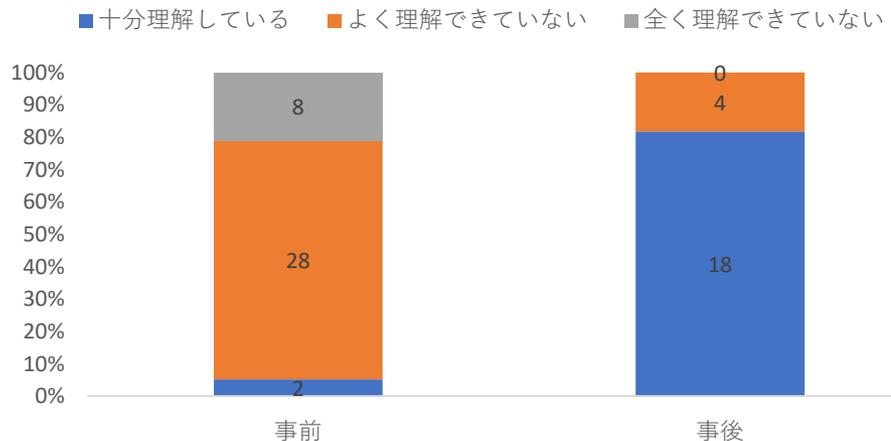
海外で働くことに



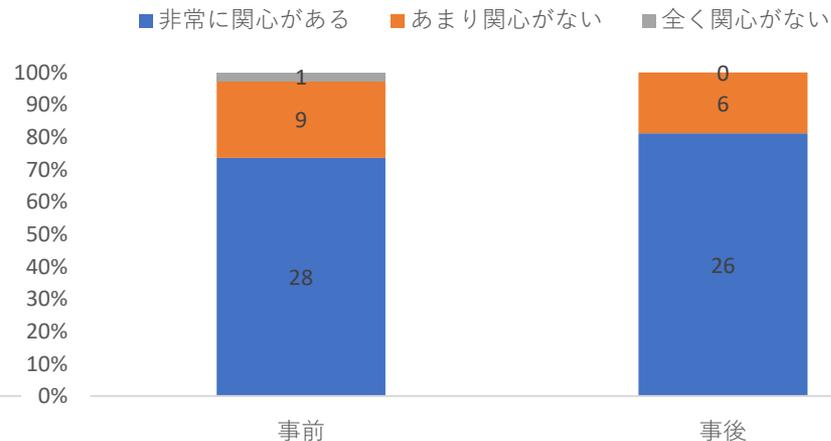
事前・事後効果測定アンケート

【廃炉および福島復興について】

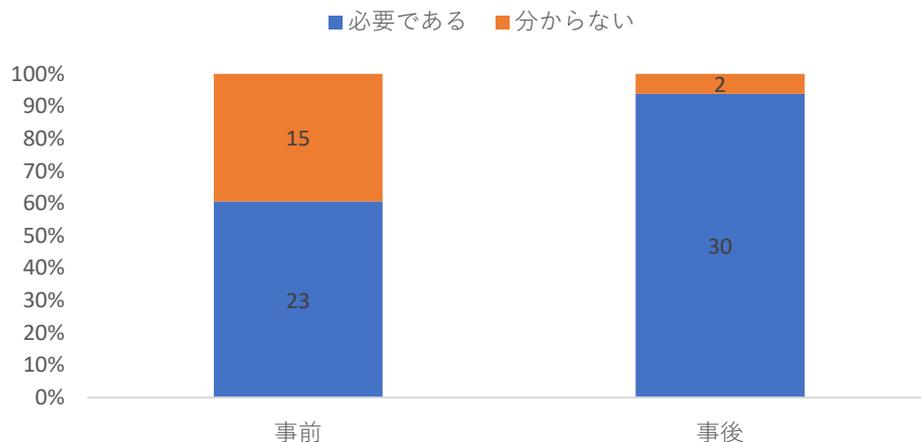
1 F廃炉に関して



福島の復興に関して



1 F廃炉はじめ福島復興に海外の知見が



感想レポート

【自身の成長】

- 国際的な交流の場に参加することによって自分の視野が広がった
- 少し遠回りをして、やりたいことが実現できると前向きに感じる事ができた
- 学校では学べないことを学び、知識や考えを深めることができた
- 自分こそが変革の主導者であるという自覚をもって、自ら行動を起こしていこうと思う
- 恥ずかしがらない、恐れないことの大切さを学んだ

【メンターについて】

- 豊富な経験からたくさんのアドバイスをいただき未来を決定するための勇気になった
- 薬剤師になりたいので、佐々木先生のジェンダーイノベーションの話が印象に残っている
- 親の希望に沿って仕事につくのは仕方がないと思っていたが、メンターが所属や学部を簡単に変えているのに驚き、いい発見となった
- メンターの話聞き、今自分の将来が分からないことは当たり前と分かり安心した
- 女性の溢れんばかりの可能性を感じ、なぜかとても嬉しかった

【廃炉について】

- 廃炉や復興を進めるために様々な分野の技術者や科学者が日々新しい技術の開発をしていることを知ることができた
- 1F視察は貴重で、自身の目で見ることによって震災の脅威を実感した
- 震災後の福島に行ったことがなかったので、日本人として知っておくべきことをこの機会に詳しく知ることができよかった
- 処理水のことなど、今ニュースになっているからどうなっているのかこれからも追いかけてい
- 廃炉は世代を超えて引き継いでいくべき問題なのでこれからも学んでいきたい
- 現場は想像以上に生々しく、事故のことが目に浮かんだ。現在処理水のニュースをよく目にするが、見学に行って現状を学んだ私達がより多くの人に安全性を伝えていく必要があると感じた
- 知らないがゆえの風評被害がたくさんあることを知り、判断する前に正しい情報を集めなければいけないことを痛感した

感想レポート

【国際関係】

- ルーマニアの文化や考え方を少し知ることができた
- ルーマニアの生徒とコミュニケーションがとれ、非日常を味わえた
- 英語の重要性を感じた
- 海外の大学に進学することへの興味を持つようになった
- 自分で英語を話してコミュニケーションをとることができ、英語力に少し自信がついた
- 海外留学を考えていたが、周りに経験者がいなかったため、今回すごく参考になった
- ルーマニアの生徒は1つしか年齢が変わらないのに、大人っぽく、会話の内容も自分の思考をきっちり伝えていたので、世界のレベルが高いことを実感した

【進路について】

- 自分を卑下する必要はなく、焦らず・・・将来への不安を取り除くことができた
- 理系分野での活躍も視野に入れつつ、文理選択に役立てたいと思った

【グループディスカッション】

- 他校の生徒と作業をすることによっていろんな考え方があることを知った
- 多くの人の将来の夢や考え方を聞くことができ、楽しかったし自分の進路の参考になった

【ポスターセッション】

- テーマ1つ1つが魅力的だった
- 研究発表を聞き、特に医療の研究は奥深く、きっかけがあれば自身も挑戦したいと感じた
- 生き生きと研究発表をする研究者の姿を見て、自分も研究職に就きたいという思いが一層強くなった

7月30日(日) 福島民報(2)

理工系の進学など探る 高岡

NDF 女子高校生対象ワークショップ



原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)が主催するワークショップ「Joshikai In Fukushima In Pu Kusumi 2023」は29、30の両日、富岡町文化交流センター「学びの森」で開かれ、全国から集まった女子高校生が理工系への進学や就職などに意見を交わしている。

29日は国内外の女性研究者も人が自身の研究内容を講演した。このうち、経済産業省資源エネルギー庁原子力発電所事故対策

の共催。理工系分野での女性の活躍を促進するため、本県を中心とする全国の女子高生を対象とした「女子会」として開催した。全国からの38人、ルーマニアの9人の計47人が参加した。

理工系への進学や就職などの将来像について話し合う参加者

応募の飯塚千亜希委員長補佐は「福島レクチャー」と題して東京電力福島第1原発の廃炉作業の現状などを説明し、原発事故からの復興に向けた本県の取り組みを紹介した。講演を聴いた参加者は自身の将来像をテーマに、女性研究者とともにディスカッションを繰り広げた。

30日はグループごとにディスカッションの内容を発表する。

7月30日(日) 福島民友(2)

富岡で「原子力女子会」

フラッシュ

原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF)の体験型講座「Joshikai(女子会) In Fukushima 2023」が29日、富岡町の文化交流センター「学びの森」で始まった。理工系の進路を考えている女子高校生を支援する取り組みで、高校生が国内外の女性研究者らとキャリア形成などについて意見を交わした=写真。

県内から24人、全国から14人、ルーマニアから9人の計47人の高



校生が参加した。初日はNDFの山名元(はじむ)理事長が「多くの若者が理工系にチャレンジし、新しい技術をつくり出してほしい。福島の地を訪れたことがヒントになれば」とあいさつした。地元を代表して山本育男町長が歓迎の言葉を述べた。講座では東京電力福島第1原発の廃炉の現状についての解説も行われた。30日は成果発表などが行われ、31日には希望者が第1原発を視察する。

東北メディカル・メガバンク機構HP

10:27 3.08.16 ユース |

石黒講師が国際メンタリングワークショップ Joshikai in Fukushima 2023 に参加

石黒真美講師が、国際メンタリングワークショップ Joshikai in Fukushima 2023 のポスターセッションに参加しました。

Joshikai in Fukushima 2023 は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構が主催する、第7回福島第一廃炉国際フォーラムのワークショップのひとつとして、2023年7月29日(土)と30日(日)に富岡文化交流センター「学びの森」(福島県双葉郡富岡町)で実施されました。理工系人材のジェンダーバランスの改善を図るため、女子高校生を対象に、国内外の女性研究者・技術者等との交流を通じて理工系への進路選択の後押しを行うものです。

石黒真美講師は、ToMMoでの研究の内容を発表したほか、将来の進路を具体的に検討する時期にある女子高校生のみなさんに、現在の仕事に就いた経緯や経験を話しました。参加したみなさんは今回の交流を通じて、科学への興味、関連する社会課題への関心を高めたようでした。参加者の一人は「まだなりたい職業が見つからないけど、今はまだそれでも良いんだと思えた」と話していました。



ワークショップの様子。中央で話しているのが石黒真美講師

いいね!0 ツイート

